Why not Mac?

vol.4

# Macは高いのか、安いのか？

“自分自身でサポートすること。
それがコスト削減につながる”

## 総所有コストと残存価値から見るMacの価格

Macを導入することでTCO（Total Cost of Ownership）が下がったという事例がある。2016年のApple製品管理ソリューションを提供するJamf社のユーザカンファレンスで、IBMのFletcher Previn氏により発表され、その後、様々な企業でMac導入に対する関心が高まったことは間違いない。日本国内においても、必要な業務システムはどんどんクラウドベースに変わりつつあり、利用するPCはWindows PCでもMacでもどちらでも大丈夫である、というPC利用の環境が整いつつある。

こうした流れから、”Windows PC” vs “Mac”のコスト比較が話題になり、Macを採用しようという企業が増えていることは間違いない。しかし、現場では「Macはクリエイター向けだから高い。Windows PCであればもっと安価に調達できる。」「Mac向けのサポート体制がないから導入は難しい。Macはサポート費用がさらにかかってしまう。」という声がまだまだ大きいのが現状だ。TCOを比較する上で確認するポイントは4つある。「基本的サービス」「ハードウェアと必須ソフトウェア」「管理」「サポート」の観点である。

まず最初に、基本的サービスとは、電源やMicrosoft Officeのライセンス、インターネット接続といったものであり、WIndows PCでもMacでもかかるコストに変わりはない。Macの場合、iWorkやSafariなどのWebブラウザも標準搭載されていて、すぐに使うことが可能だが、ほとんどの企業がMicrosoftのプラットフォームで業務を行ってきたこともあり、Microsoft OfficeのライセンスはWindows PCでもMacでも同等にコストがかかる。

次に比較のポイントになるのが、ハードウェアと必須ソフトウェアだ。まず、ハードウェアのコストに関しては、世の中でよく言われている通り、Macの方が高いと言える。企業が大量のPCを調達しようとした場合、メーカーや提供するベンダーがその企業向けに安価な仕様のデバイスを用意することが多く、Macの方が高いことは明確だ。さらに、Macに関していえば、世界的な視点でApple製品の市場価格を統制しようとするAppleの方針からも、企業が大量に調達しようとした場合でも、安価に調達することは難しい。企業がMacを調達しようとする際に、日本国内の法人向けのApple正規販売代理店が少なく、商流が限定的であることからも、価格が極端に安くなるようなこともないのが現状だ。

しかし、PCを利用するために必須なソフトウェアに目を向けてみると、Macの場合は無料でmacOSのライセンスが提供されていることがコストを比較する点で見逃せないところだ。OSライセンスが無料であること、さらにその中には企業内で利用する上で必要な暗号化（FileVault 2）やマルウェア対策の機能（XProtect）も標準搭載されているのだ。また、Appleは企業向けのデバイス登録プログラム（Apple Business ManagerやDevice Enrollment Program(DEP)）も無料で提供しており、導入、展開に関しても追加の料金がかかることはない。

一方でWindows PCの場合は、（ベンダーからの提供方法にもよるが）Windows 10のPro版のライセンスやウイルス対策ソフトなど、追加コストが発生する。また、WIndows PCの導入、展開に関して、Windows AutoPilotというものがある。AppleのDEPのようなものだが、企業で採用されているケースはまだ少なく、Windows PCの導入、展開にかかるコストの部分でも、既に多くの企業で採用実績のあるAppleのDEPの方が一日の長がある。

管理の点においては、Windows PCはMicrosoftからSCCM(System Center Configuration Manager)が提供されており、多くの企業で採用されてきた管理システムである。最近ではクラウドベースのMDM製品であるIntuneも登場し、IT管理者はSCCMとIntuneの両方の管理システムを併用する必要があり、管理システムの運用面でもコスト負担が上がってきている。Macについては、数多くの企業で採用されているiOSデバイスと同じ管理フレームワークで管理・運用できることがIT管理者の負担を軽減する。古くから積み上げてきたWindows PCの管理システムと比べても、AppleのMDMによる管理フレームワークは、iOSデバイスもMacも同じ手法で管理できることから、モバイル時代の管理方法としても、これから中心となる管理方法であることは間違いない。

最後に比較すべき点がサポートである。ここでは基本的にWindows PCでもMacでもサポートに係る人件費は変わらない。大事なポイントは、使い慣れたMacを企業内で使えるようになることが、何か設定や操作をする上で問題が発生したとしても、「自分のことは自分で行うように導く」ことで、余計なサポートコストが発生しないということである。

従業員がMacを選択する理由は、プライベートで使い慣れたMacを業務でも使いたい、ということ。これにより、業務に必要なPCの操作を習熟するための学習コストがかからない。また、セルフサービスモデルのアプリケーションの提供方法により、従業員自らが業務に必要なソフトウェアを自分自身で設定できるようになる。サポートスタッフがわざわざインストールしに行ったり、電話やチャットなどを通してリモートで支援する負荷も軽減できる。Macを利用する人が自分自身の手でサポートができることで、ITヘルプデスクにかかるコストを最適化することが可能になるのだ。

こうした”Windows PC” vs “Mac”のコスト比較を通して、Macが企業内で利用するPCとしても、決してコストが高いとは言えないはずだ。さらに言えば、2年、3年経過した時点でのMacの市場における残存価格の点も含めると、PCのライフサイクル管理全体を通して、Macの方がコストの面でも優位性があるのではないか。